

3. 新学士課程教育システムの現状

新潟大学

全学教育機構企画部門長 柴山 直

全学教育企画部門の柴山です。新学士課程教育システムを構築するに当たりまして、全学教育機構がこれまでどのようなことをし、今後どういう仕事をしていくのかについてかいつまんで報告いたします。

まず、全学教育支援システムですが、現在の学務情報システムよりはるかに使いやすいシステムを目指しまして、そこにあります通りに、基本性能の強化とか、カスタマイズ性の向上、統一的な認証の導入、学生カルテによる包括的な教育支援といった機能を持たせたシステムを現在開発中です。

例えば学生カルテですが、これは包括的な教育支援というものを考えておりまして、総合型のデータベースによりまして学生情報を一元管理します。そのことによりまして担当教員が学生情報をリアルタイムで参照することができるようになります。そして、履修指導・進路指導・生活指導を効率よく的確に進めることが可能となります。

それから、副専攻プログラムを履修する際の支援用具としての使い方も考えています。

具体的には、たとえば、達成状況を学生自身が副専攻のどれだけの履修要件を満たしているのかというのをリアルタイムでモニターできるといった点があげられます。そのほかにもいろいろ特徴はありますが、平成19年春の本格稼働を目指して、現在、教職員一丸となって開発しているところです。

次に、副専攻プログラムの現状をご説明します。課題別専攻と分野別専攻の2種類があり、課題別として13本、分野別として6本の合計19のプログラムが現在走っています。各プログラムには5名~40名程度の受講生がいます。実際に受講生達に尋ねてみますとかなり積極的に意欲をもって取り組んでいるようです。今年の春に15名~20名の認定ができる見込みです。ただ、この副専攻プログラムに関しましては、まだ社会の認知があまりなされていませんので、キャリアセンターと協力しながらもう少し社会に認知されることを考えていきたいと思っています。副専攻プログラムを終えた学生達は本当に力をつけて新潟大学を卒業している。そういうようなことを目指しています。

さて、開講科目の現状ですが、平成17年度のデータベースにもとづいて、私どもが把握している科目数ですが9568科目あります。これは全学部こみになってい

る数ですが、これを学部別にみたのがこちらのグラフです。法学部・経済学部・理学部などと比べまして、人文学部や教育人間科学部とかがかなり多めになっているという特徴があります。これがデータの方から見た現在の開講科目の一番大きな問題と考えています。

この現象は複数枚看板科目の存在があつておこっています。複数枚看板科目というのは、これは、こういう場を出していい言葉なのかちょっとわからないのですが、他にいい言葉がないので使わせていただきますと、実際には、同じ先生が同じ教室で同じ曜限でやっているにもかかわらず、ことなる科目名がついたもののことを言います。これはカリキュラムの改訂があつたり、複数のコースの学生向けに同じ内容の授業をする際に合同で授業をおこなったりするために生じるものです。しかし、この複数枚看板科目の存在は学生にとっても、教師にとっても事務にとっても混乱のもとになっています。それよりも何よりもそもそも開講科目に関する正確な実態把握ができません。

それでは、複数枚看板科目数はどれだけあるのかということで、いろいろ分析してみたのですが、正確な数は出せませんでした。9568科目のうち2500程度が大学院科目で、残りの7000科目のうち少なくとも2885はある。これは、確実な値として出せたのですが、不確実なものも入れますと大体最大限4683科目ということになります。いずれにしても、理念的にもおかしい話ですから、カリキュラムの整備を早急に進めていかなければなりません。

それでは、つづきまして分野水準表示法の現状をご報告します。これは、科目の属性をそれぞれ2桁の数値で表現したものです。例えば、物理学なら物理学に対して分野コード43を振り、さらにその水準を二桁の数で表しています。分野コードにつきましては、科研費のコードを援用したりして作っていますが、少し系統的でないところもあり、現在見直しをかけているところです。

水準の2桁ですが、十の位のほうですが、0が十の位についていれば、全学部の学生を受け入れることが可能な科目、それから1がついているものがありますが、これは当該の学科の学生に限られる科目、また2は教員免許及び医師免許などの資格にかかる科目とすることを表します。一方、一の位の意味ですが、1か

ら5という分類がありまして、1が大学学習などの導入教育を目的とした科目、2が高校で学ぶ程度の、いわゆるリメディアル科目、そして、3から5が、本来の意味での大学科目ということで、レベルとしてはその順に段々難しくなっていきます。例えば5になりますと大学院との接続を念頭においたアドバンストな内容の科目になっています。

この水準ですが、理想的な分布としてはこういう形のものが得られるといいと考えております。本来の大学の科目ということで、この3から5、特に3と4あたりの科目が充実していると学生達にとって非常にいい形と思っております。実際に現在開講されておりますものを、学部別にみていきますと農学部や理学部は大体このような形になっています。経済学部は聞くところによりますと水準の意味を少し取り違えていて、こちら側のアナウンスも悪かったのですが、4と5に偏って付けてしまったとのことです。これは理解して頂ければすぐに修正可能な事柄です。そういうふうに、まだ学部によっては分野水準表示方法が普及していないというのが現状です。

水準コードと学年の関係ですが、当然、受講学年の平均値も水準に応じて上がっていくはずですが、実際、理学部や農学部は水準3ですと大体1年生、4ですと2年生3年生が中心となっています。そして、5になりますと3年生と4年生が中心となっています。

それから、今、水準の話を申し上げましたが、分野コードを使った分析の一例としまして、例えば、物理、分野コード43ですが、開講実態というのをみてみますと月曜1限から金曜4限までと集中、さらに第一期・第二期・通年ということで、全体で139の科目が開講されています。これを非常勤の先生も含めて大学全体で47名の先生が担当しています。この一覧表を利用すれば、どこか特定の曜限とかに物理のある水準の科目が集中したりしていますとすぐにわかりますから、それでは学生にとってはとりにくいということで、少し開講曜限の調整をお願いしたりすることも可能になります。

そして、また話がかかりまして、受講生が在籍している学部がどういうふうなパターンを示しているかについて見ていきます。パターンAとパターンBの場合はほぼ自学部の学生で、その授業科目は埋まっています。それからパターンCとパターンDの場合ですと、自学部の学生も多くいますが、ほかの学部からの受講生も多いというパターンです。

これもあきらかに理系と文系ではパターンが違ってきます。これは、当たり前といえば当たり前ののですが、理系の方は、ほとんどが自学部の学生でその授業が占められています。せっかく、全学科目化になりまして、いろいろな学生達がいろんな分野の学問を教養としてみにつけられるよう、もう少しパターンC、Dの数があればいいというように思います。

それでは、全学科目化と分野水準表示法の二つが導入された効果という点で、法学部の事例を取り上げます。法科大学院設立との兼ね合いで、法学部は平成16年度にカリキュラムの変更があり、この年度のデータというのはかなり不安定ということですので、平成15年度と平成17年度で比較しています。このグラフは、法学部の学生が一人でも他学部の授業をとってれば1としてカウントして表示したものです。いわゆる以前の教養科目としてのGコード科目の数は減少しています。その一方で、他学部の科目をとっている法学部の学生が増えていることがわかります。これはいろんな理由が原因として考えられるわけですが、一応全体としてはそういう傾向がみられます。その一番の理由としては、法学部では分野水準表示法を使った履修指導を行っていることがあげられます。今後、分野水準表示法を実体化していくためには、このような履修指導も必要だと考えています。

そして、最後に、授業評価ですが、シラバスに書かれている通りの授業が、学生達に供給できているのだろうかというチェックにも利用する予定です。言い換えれば、いままで信頼ベースで授業が開講されてきたわけですが、それが契約ベースになってきていると考えることができるかと思います。契約ベースになってきているその分をきちんと押さえておくことはきわめて重要なわけです。

そのために、平成19年度を目指して全学共通の授業評価アンケートを導入する予定です。しかし、いきなり新しいアンケートを入れてもやはり意味はないと思ひまして、既存のアンケート、各学部独自のアンケートとの整合性をとらないといけません。それから、こういう評価ですから、きちんとその評価結果に信頼性があるのか、妥当性があるのか、そういうことをやってから実際に導入する予定です。しかも、まずいことがあれば、常に修正してゆこうと考えていますので、その最初の足がかりとして本年度の第二期にサンプリング調査を、全学対象に50科目学生数2000名程度の規模で実施しているところです。

その授業評価アンケートの内容ですが、学生の学習力につきましては4項目、授業について教員の態度・教授技術・学生にとって学習生活を総合できる内容、そして最後にそれぞれの学部別項目につきましては2項目設けられるような内容にしています。授業の設定・教員の態度・教授技術といったものを、全部で18項目のうち10項目を費やしてたずねています。あくまでも授業評価は授業の改善が目的であって、決して先生方の人事評価に結び付けるためではないということ強調しています。

これまで申し上げたことをまとめてみますと、まずこれからの教育プログラムは、必要なまた魅力ある科目は開設していかなければいけませんし、逆に魅力のないプログラムや役割の終わった科目は閉ざしてく

という機動的な対応が求められています。

それから、社会的な要請に的確に対応していくこと。また、先生方も感じられていると思いますが、大学の学問に対して準備状況がかならずしも十分でない学生達に合わせた授業を組み立てていく必要があります。そして、その学生達にとって自分がどういうふうな授業をとればどういう能力が修得できるのか、そういうわかりやすい授業体系というものをこしらえていかなければいけないと考えています。

さらに教育組織の効率的・効果的な運用を目指す必要があります。こういうふうにありますとすぐポストが減るのではないかと、首が切られるのではないかと

という話になりますが、ここで考えているのはそういうことではありません。先生方のもっているパワーを効率よく使えば無駄な部分が少なくなって本当に先生方がやりたい研究とかに集中できる、いわばサバティカルのような時間が生み出せるのではないかとというようなことを願って、このような効率化を考えています。それから、単なる思いつきや観念論ではなく、データベースな迅速で的確な判断をしながら、これからの新潟大学全体の教育能力を向上させていこうということです。

資料

平成18年1月30日
新潟大学
「学士課程教育」フォーラム

学士課程教育の現状と課題

新潟大学全学教育機構
全学教育企画部門 部門長
柴山直

平成18年1月30日
新潟大学
「学士課程教育」フォーラム

全学教育機構

平成18年1月30日
新潟大学
「学士課程教育」フォーラム

概要

1. 全学教育支援システム
2. 副専攻制度
3. 開講科目の現状
4. 分野・水準表示法を利用して

平成18年1月30日
新潟大学
「学士課程教育」フォーラム

1. 全学教育支援システム

- ◆ 基本性能の強化
→「強力な」ITシステム
- ◆ カスタマイズ性の向上
→「柔軟な」情報の提示
- ◆ 統一的な認証の導入
→「すぐに使える」ポータル
- ◆ 学生カルテによる包括的な教育支援
→「きめ細かな」対応

「使いやすい」システムに

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

学生カルテ

- ◆ 包括的な教育支援
 - 統合型DBにより学生情報を一元管理
 - 担当教員が学生情報を参照
 - 履修指導
 - 卒業論文作成指導
 - 生活指導

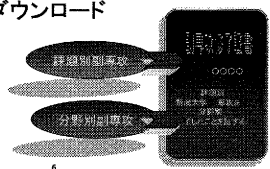


5

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

副専攻への対応

- ◆ 履修・成績
 - 修得科目の成績や修了要件の達成状況を確認
- ◆ 申請・認定
 - 認定申請書のダウンロード
 - 証明書の発行



6

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

2.副専攻プログラム

課題別	分野別	
環境学 メディア・リテラシー 芸術学 文化財学 外国語(ドイツ語) 外国語(英語) 外国語(フランス語) 外国語(韓国) 外国語(ロシア語) 外国語(中国語) 世界システム論 平和学 MOT基礎(特許・経営及び製品開発基礎コース)	工学部 農学部 経済学 法学部 教育学 理学部 総合化学	合計 19 プログラム 各プログラム 5~40名程度の 受講生 来年度15~20名 認定予定

7

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

副専攻認定の要件

- ① 第3年次までに当該副専攻プログラムの入門科目を履修
- ② 認定対象となる有資格者
- ③ 副専攻所定科目 \geq 24単位
- ④ 所属学部卒業要件単位数+12単位以上
- ⑤ GPA \geq 2.5

8

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

GPAの計算式

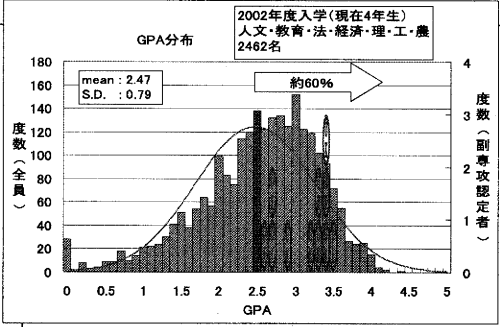
$$\frac{(\text{各授業科目の単位数} \times (\text{各授業科目の評価} - 50) \div 10) \text{の総和}}{\text{履修した各授業科目の単位数の総和}}$$

備考 GPA<0 のときは GPA=0 とする

9

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

GPAの分布と副専攻認定申請者の成績



10

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

3. 開講科目の現状

- ◆平成17年度開講データベース
- ◆9,568科目
- ◆全学科目化

11

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

部局別の開講科目数と問題点

G	人文	教育	法	経済	医	歯	理	工	農	他	総計
1222	841	2210	333	412	422	111	520	557	369	2571	9568

12

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

4. 分野・水準表示法を利用して

- ◆科目の属性としての
- ◆「分野」と「水準」を
- ◆それぞれ2桁の数字で表現

開講番号	履修期	科目名	教官名	曜日	分野	水準
S0001	第1期	物理数学演習	〇〇 〇〇	月2	43	14
S0002	第1期	素粒子物理学I	△△ △△	月2	43	05

13

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

科目区分	細区分	分野 (ベンチマーク)	
		10	11
英語	初修外国語	70	英語
		71	外国語
		72	ドイツ語
		73	フランス語
自然系共通専門基礎		41	数学
		43	物理学
		46	化学
		57	生物学
		44	地学
人文社会・教育科学	人文科学	16	科学社会学
		26	哲学
		29	文学
		30	言語学
		31	史学

14

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

水準(十の位)の意味

十の位の数字	
0-	全学の学生を受け入れることが可能な科目
1-	当該学部(学科)の学生に限られる科目
2-	教員免許などの資格に関わる科目

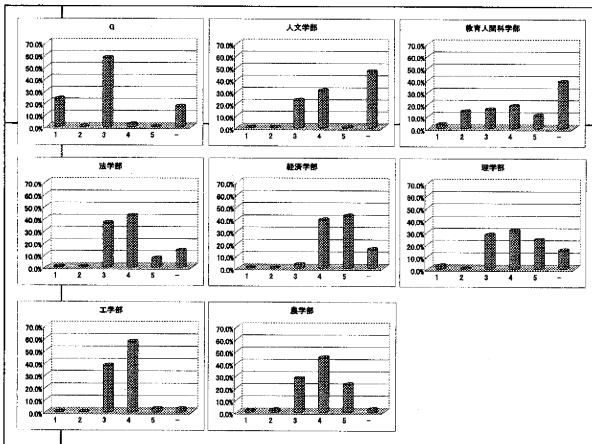
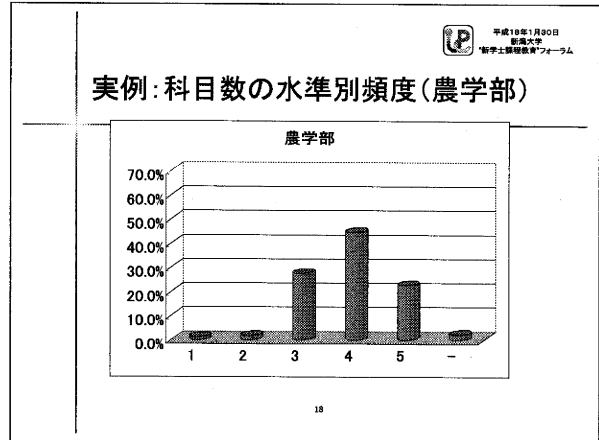
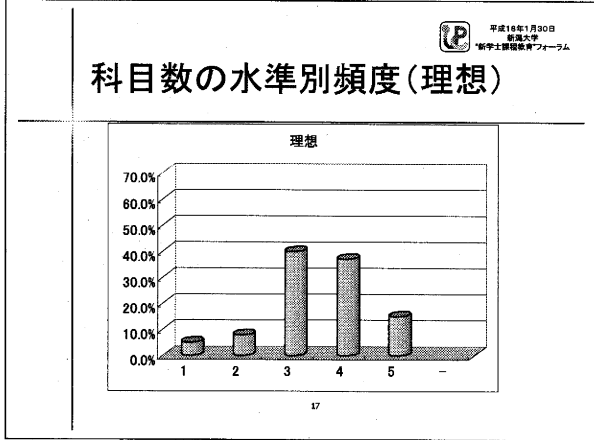
15

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

水準(1の位)の意味

1の位の数字		
1	高等学校との接続を意識した水準	大学学習法などの導入教育
2	高等学校との接続的科目のうち専門性に関連したもの	高校で習うレベルの講義
3	通常の大学の基礎的水準	大学における「普通の」講義
4	専門の中核的水準	レベル 3 < 4
5	発展的内容の科目で大学院との接続水準	アドバンス・限定的な内容の講義

16



平成18年1月30日
新潟大学
「新学士課程教育」フォーラム

水準コードと受講学年の関係

水準	G	人文	教育	法	経済	理	工	農	全体
3	1.67	2.00	2.78	2.87	1.90	1.85	2.27	2.41	2.08
4	2.98	3.32	2.96	3.41	2.42	2.76	2.72	2.87	2.93
5	-	-	3.54	3.44	3.01	3.74	4.00	3.20	3.38

20

平成18年1月30日
新潟大学
「新学士課程教育」フォーラム

全学的な講義管理 物理(分野コード43)の開講実態

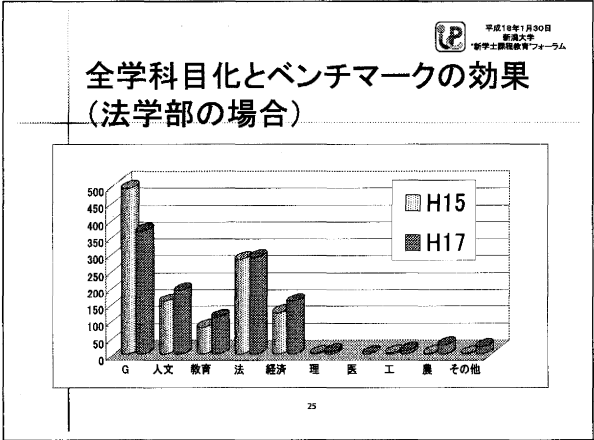
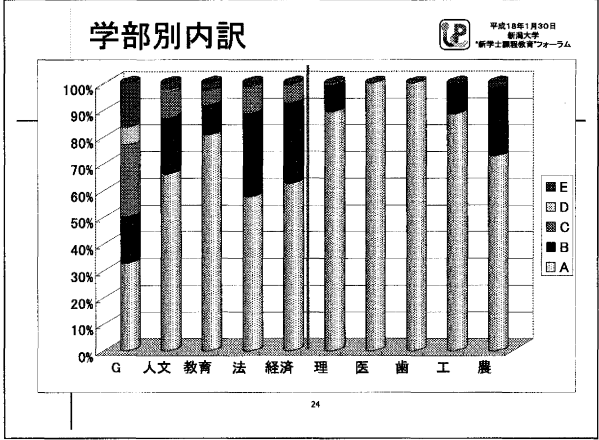
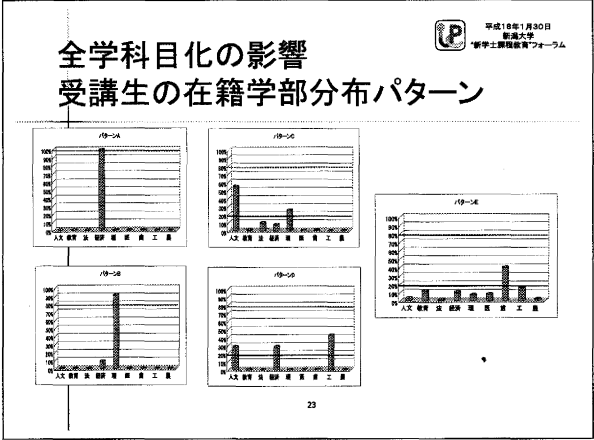
曜時限	集中	第1期	第2期	通年	総計
月1			2		2
月2		8(6)	5		13
月3		3	4	1	8
金3		1	1		2
金3-4			1		1
金4		1			1
	10				10
総計	10	69	58	2	139

平成18年1月30日
新潟大学
「新学士課程教育」フォーラム

物理学(I期・月・2限)の内訳

開講番号	履修期	科目名	教官名	曜限	分野	水準
G5010	第1期	物理学基礎A I	理学部 教員	月2	43	03
S0205	第1期	物理学基礎A I	理学部 教員	月2	43	03
K5824	第1期	基礎物理学IB	教育 教員	月2	43	03
K7540	第1期	基礎物理学IB	教育 教員	月2	43	03
T3014	第1期	物理工学III	工学部 教員	月2	43	03
S2030	第1期	電気力学	理学部 教員	月2	43	04
S2015	第1期	物理数学演習	理学部 教員	月2	43	14
S2048	第1期	物理学I	理学部 教員	月2	43	05

22



法学部の履修指導

I 法学部における履修について

A 法学部における履修の流れ

① 新しいカリキュラムでは、法学部の授業科目だけでなく、他学部の授業科目も、すべて「全学科目」と「学部科目」に分けられます。

「全学科目」とは、全学部の学生が履修できる科目です(これにより副専攻制度(別冊子参照)が充実することになりました)。

「学部科目」とは、原則として特定学部の学生だけが履修できる科目をいいます。

なお、すべての科目について、難易度を示すレベルが設定されることになりました。レベルは5段階で表示されます。

ある授業が「全学科目」なのか「学部科目」なのか、「難易度はどのレベルなのか」、これらの点は、授業科目一覧表で、2桁の数字で示されています。十の位がゼロなら「全学科目」を、1なら「学部科目」を、それぞれ意味します(教育人間科学部の科目には2がついているものもありますが、これは教員免許に関する科目ですので、教職科目をとる学生以外はほとんど関係しません)。また、一の位は難易度の低いものから1~5で示されています。したがって、例えば、03科目とは、「全学科目」で「難易度が中程度」のものを、14科目とは「学部科目」で「難易度がやや高いもの」を示しています。

26

分野・水準表示法の管理

平成18年1月30日
新潟大学
新学士課程教育フォーラム

- ◆ 授業評価アンケートでの、学生による水準の評定
- ◆ GPAや成績分布によるチェック
- ◆ 内容的チェック(達成目標明示型のシラバス)

分野水準部会

27

まとめ

- ◆ 魅力あるプログラムの機動的な準備
- ◆ 社会的な要請への的確な対応
- ◆ 学生のレディネスにあわせた授業
- ◆ 学生にとって分かりやすい授業体系
- ◆ 教員組織の効率的・効果的な運用
- ◆ 授業技術の不断の向上

← データベースな判断

28